

18/9/25 名古屋市議会本会議議事録（名古屋市民オンブズマンによる自動文字起こしアプリによる自動文字起こし）

次に、江上博之君にお許しいたします。

江上博之君（共産）：通告に従い、名古屋城天守閣整備事業の見直しを求めて質問をいたします。

観光文化交流局長に質問いたします。

第一に、事業は今どのようなになっているのかという点です。

21日の答弁で、文化庁の現状変更許可は、時間的に大変厳しいとありました。

申請そのものも行っていないことも明らかです。

その経過も含めて、7月4日から9月21日の答弁まで3ヶ月近く市民や議会に何ら報告されていないことが問題です。

6月議会は7月4日閉会いたしました。

その後有識者による石垣部会や天守閣部会が開催され、河村市長が7月26日、8月3日、文化庁と話し合い、市長は基本計画の見直しに1ヶ月ほどかかる。9月上旬提出と報道されておりました。

しかし議会閉会以後、事業が今どうなっているのか、市民にも議会にも報告されておられません。

9月議会でも審議の予定はありません。

名古屋市は10月の文化庁の文化審議会ですべて許可を得るのは厳しいと答弁しておりますが、まだありうるかのようなことを言っております。

そこで質問いたします。3ヶ月近くの間、どのようなことが行われたのか明らかにしてください。

そして、事務手続き上、10月文化審議会に諮ることはできないことを明言してください。

第二に、現天守閣の価値の高い位置づけから現天守を解体していいのかという点であります。

7月19日の天守閣部会で文化庁に提出予定の基本計画案が提出されました。

その内容を読むと、現天守の価値や天守台石垣の保全と安全対策について、昨年12月25日、市議会に提出された案から大幅な加筆が行われております。

この間、文化庁とのやりとりで、一つは戦後都市文化の象徴である鉄骨鉄筋造天守を解体するにはなお議論を尽くす必要がある。

もう一つ 天守解体及び木造天守建築時における天守台石垣に対する影響等が意見として出され、その回答が名古屋市に求められております。

その回答として、現天守の価値を記述していると思われまます。

5点ほどに整理しています。

一点目に、戦後復興の象徴として名古屋のシンボルとしての役割がある。

2点目に、市民の給与、熱意の高まりにより再建された。

3点目に、豊富な史資料に基づく外観復元で、その精度精密さは他の城郭には見られない名古屋城の特徴であると位置づけることができる。

4点目に、鉄骨鉄筋コンクリート造、建築物としての価値として、外観は焼失前の天守閣と寸分も違わぬ姿に復元されるなど、当時の建築技術の水準を表すものとしても、現天守は評価できる。

内部についても、二つの螺旋階段や人造大理石の柱など近代建築技術の粋を集めた造作が施され、モダニズム建築としても、文化財としての価値を、こんにち有するものと評価されている。二度と消失することのないようにという願いも込められていたのもであるとまで記述しております。

5点目に、博物館としての機能と活用が挙げられています。

そこで質問いたします。これだけ価値のある現天守を解体していいのでしょうか。

市民の思い、文化財としても残す選択肢を考えるべきではないでしょうか。

第三に、特別史跡の本物である石垣保全修復についてであります。

文化庁から回答を求められている石垣問題についてです。

石垣について、有識者から天守台北側の膨らみ、ハラミと言っているようですが、約 100 cm はらみ出していると記述されています。

7月13日の石垣部会で有識者から内部が空洞の可能性があり、危機的な状況、深刻と言われております。

一般論として復元兼建物を整備するに当たり、石垣の保全を後回しにすることはないとも指摘されております。石垣保全修復が先と言っているわけであります。

しかし名古屋市の計画では、天守は石垣に負荷をかけないからといって石垣の保全修復は木造完成後9年間で行う計画になっています。

そこで質問いたします。

現天守解体を考える前に特別史跡である石垣の保全修復を先に進めるのが当然ではありませんか。回答を求めます。

第四に天守最上階への階段についてです。

7月19日の天守閣部会の有識者会議では、災害時の避難について提案されております。

現在の竹中工務店の提案では、4から5層も木造階段を追加し、各層全て2ヶ所ずつの階段設置をすることで、上り下りの一方向観覧者ルートを実現し、観覧経路のボトルネックをなくしますという案がおります。

ところが、今回の提案では、4から5層は1ヶ所の階段だけで、追加階段計画はありません。

計画はないとしております。最上階の5階は、展望階となります。

最も多くの人を訪れたいと思っている階です。

その層の階段は幅1メートル50センチで、角度45度程度の上り下り、こういう階段であ

ります。

しかし 1ヶ所になれば人の流れは止まり、入場者を制限することになるのではないのでしょうか。また入場制限をすることになりますから、入場者数も想定より少なくなるのではないのでしょうか。

そこで質問いたします。

最上層への階段を 1ヶ所にすることによる観覧者の安全や入場制限の必要性が出てくるのではないのでしょうか。どうお考えでしょうか。お答えください。

以上で私の第 1 回目の質問を終わります。

(河村市長のヤジ)

渡辺観光文化局長：名古屋城天守閣整備事業の見直しについて数点のお尋ねをいただきました。初めに事業の進捗状況でございます。

7月13日に石垣部会、19日に天守閣部会を開催いたしまして、基本計画書案をお諮りし、それぞれの部会でいただいたご意見を反映したものを文化庁に提出する計画でございました。

しかしながら、石垣の保存方針について有識者との認識の一致を見ていないことを文化庁から指摘されましたことにより、計画書案の提出を見送ったところでございます。

その後、石垣の評価や保存対策について再検討し、今後実施する調査に基づき、特に北面のハラミ等緊急性の高いものについては優先的に対応するなど、石垣保存方針を見直ししているところでございますが、9月下旬となり、10月の文化審議会は時間的に大変厳しい状況でございます。

次に、現天守閣の価値についてお尋ねをいただきました。

名古屋城跡保存活用計画において現天守閣の価値を超える木造復元の意義を丁寧に説明することを前提として整備方針は木造とし、検討を進めるといたしまして、天守閣の木造復元を進めているところでございます。

ご指摘のとおり、現天守閣には戦後の復興期に市民の機運の盛り上がりによって再建された名古屋のシンボルであることなど大きな価値がありますので、現在の天守閣を解体するに当たりましては、バーチャルリアリティーや映像など様々な方法で記録を作成し、その価値を広く発信して後世につないでまいりたいと存じます。

次に、特別史跡である石垣の保存修復についてお尋ねいただきました。

昨年より行ってまいりました調査結果を取りまとめて報告した本年7月13日の石垣部会では、天守台石垣北面が強くはらみ出しており、極めて危険な状態であることが指摘されました。

石垣の修復につきましては詳細調査を進め、その調査結果に基づいて石垣の状況を把握した上で保存方針を立て適切に対応を行ってまいりたいと存じます。

次に、天守閣最上階への階段についてお尋ねをいただきました。

本市といたしまして、本市としての現計画では、史実に忠実な復元とするため、最上階への階段を1ヶ所といたしておりますが、管理運営面での工夫により、安全面を確保するとともに、できる限り入場制限をせず、多くの方にご覧いただけるように努めてまいりたいと存じます。

以上でございます。

江上博之君(共産):今、10月文化審議会に諮ることができていないと明言を求めましたが、大変厳しい状況と繰り返すだけでした。

現天守の解体を考える前に、先に天守石垣保全修復を求めましたが、これも回答がありません。

ではなぜ回答しないのか。

以下、観光文化交流局長に再質問いたします。

石垣の保全年針について、地元有識者と認識の一致をみていないことを文化庁から指摘されたと答弁がありました。

名古屋市は、今後実施する調査に基づき、特に、北側北面はらみ等、緊急性の高いものについては優先的に対応し、天守閣修復後に、本格的な石垣の修復を行っていくという2段階の主張です。

一方、有識者の皆さんは、一般的には復元建物整備より、石垣保全が最優先ということです。

新聞で、市側から有識者を納得させる案は示せなかったとも報道されております。

ここが有識者と名古屋市の認識の一致を見ていない点、と理解していいのでしょうか。

お答えください。

観光文化局長:石垣の保存、石垣保存の認識について再度のお尋ねをいただきました。

石垣部会は天守台石垣が深刻な状況にあり、石垣の保存について検討し、必要な措置をとることが最優先であり、本市の示した石垣の保存方針では不十分である、と考えていると認識しております。

したがって、専門的な助言を得ながら、石垣保存方針を検討し、石垣部会と一致した認識で事業を進められるよう努めているところでございます。

江上博之君:有識者との認識の一致をみていない点について、有識者は石垣保全が最優先に、つまり現天守解体前に石垣保全という私の理解を局長は否定しませんでした。

有識者と市が認識を一致するのは簡単ではないと名古屋市は認識しているのではないのでしょうか。

来年5月の文化審議会での許可も難しいと明言すべきです。

これが言えないのはなぜか。

2022 年木造化完成にこだわっているからではありませんか。

以下、河村市長に質問します。

日本共産党市議団は 8 月から市政アンケートを行っております。現時点で 1 万件ほど返信がありました。その内 1200 件について集計をいたしました。

名古屋城天守閣整備の今後のあり方についてどうお考えですか。に対し、

- ・市長提案の 2022 年完成目標で木造化する 27%。
- ・いったん立ち止まり、改めて検討する 32%。
- ・耐震補強などを行い、木造化を行わない 27%。

こういう結果で市民の意見は分かれています。

市長がこだわっている 2022 年完成に市民合意はありません。

石垣保全修復が第一としない。

現天守の大きな価値があると市は認めているのに解体しようとする。

計画する木造天守の安全性、エレベーター問題もあります。

2022 年完成の天守閣木造化にこだわるのが全ての問題の原因でなっています。

いったん立ち止まって市民の声を聞くために計画を見直すことを求めます。

河村市長 お答えください。

河村市長：私は前、市長選挙をやっております、そのときに公約に掲げておりました私でない方の方はストップ木造化とポスターに大々的に書いておられまして、あのような結果になりました、まあいっきゃあ河村さんが頑張ってちょーとこういうふうになったのがまず一つ。

それから議会で、議会でやっぱりちゃんと議決をいただいております、これは私に対する一つの命令というか、命令でございますので、それに従って実行していかかんと。

それと、ご承知のように、IS 値が 0.14 という非常に危険な建物でございますので今コンクリートの名古屋城はですね。

五大都市のあらゆる公共建築物ですねお城じゃないんですよあらゆる公共建築物の中で確かに今一番低いと。それより低かったのが大須にあった中公設ですけどもすでに取りこわしまして、本当は危険極まりない建物になっております。

残念ながらですね、そういうことでございますので、早く解体する必要があると僕の考えではもう下で工事やとる人も本当に危ない状況だとこれ、大阪で地震がありましてブロック塀が壊れてきてですね亡くなられたということでございますけれども、今度はコンクリだけでなく 37 何メートル、下からいきますと 50 何メートルありますけど、一番下の 1 階はだいたい瓦ですのでそれが落ちてきたりする可能性は十分あるということもあります。

それとやっぱり国宝 1 号としてですね名古屋の空にですね。ずうっと 333 年間輝いてきた

このお城をですね、もう 1 回図面があることから、本物に復元してあと 1000 年、1000 年残していくというのが、これは私どもの今に生きる名古屋の人間の僕は使命だと思っておりますんで。そんな見直すつもりは全くありません。

江上博之君：耐震化問題は 2009 年にわかっていたことであって、市がやってきていない、河村市長になってからもとっくに分かっていた。

そういう問題であることを指摘しております、指摘しておきます。

できないことはできないと市民に明らかにすることも市長の責任です。

505 億円もの事業がこの 3 ヶ月間、市民や議会は、事業がどうなっているか知らない知らされておられません。市民置き去りの事業は見直すべきであります。

名古屋へ人を呼び寄せるための観光資源としての名古屋城でなく、文化財として価値があると認めている名古屋城をどう保存するかが問われております。

文化財保護より観光という考え方を改めることです。

2022 年完成の天守閣木造化は中止。

いったん立ち止まって市民の声を聞け、そのために計画を見直すことを求めて、質問を終わります。